

Physical Mental Spiritual
Simple Economical Universal
Total Lifestyle Change

トータルヘルス

自然を基調にした健康づくりの情報誌

年6回発行
年間購読料 〒共1500円
郵便振替 トータルヘルス 00190-9-173681

第18号

巻頭言

人類のための食計画

編集部

世の中には驚く出来事が少なくないが、調べてみればこんなにも「話題にはされないシロキングな事実が」多いことに驚いてしまった。狂牛病が話題になった2年から、全国の自治体が学校給食において牛肉を使用するのを自粛し始めた。農林水産省の調べによれば、話題の渦中、平成十三年秋の各地区の学校給食における牛肉使用の自粛率は、関東地区の八十三%を最大として全国平均で五十二%の学校が牛肉の使用を自粛していた。しかし、時が経つにつれ自粛傾向は降下し、昨年末日の統計では、最も意識が高い関東地区でも十三%、全国平均ではわずかに五%の学校だけが「肉の使用に気をつけている」に過ぎないことがわかる。

ご存知のように、農水省は「英国での動物実験などの結果から、脳、せき髄、眼、回腸遠位部以外からの感染は認められていない。こうした部位を含まない食肉や牛乳、乳製品は、OIE(国際獣疫事務局)の基準でも除外すべき対象とはされておらず、食べても安全」しかも「マウスの実験からも明らかにしたが、人間がたとい狂牛病に感染した牛の乳を飲んでさえも大丈夫」と公言している。こうした見解を丸ごと信じている国民がどれくらいたるのだろうか。各自自治体の指導で学校では牛肉の使用はますます多くなつてきているが、これがそのまま国民の感覚とは思えない。政府をしてここまで国民に肉や乳製品を消費させる力が何か働いているからであろう。我々はともすると大きな機関、大きな力が物を言えば、それはあたかも真実で保障付きのごとくに錯角しがちだ。狂牛病は3~5年の潜伏期間があるのだから、市場に出される健康に見える牛も、実際は感染しているかも知れず、それらは明日の給食に登場しているかも知れないのである。そして大丈夫と言いつつ食べ、飲んで十数年後には発病という経過をたどることになる。

狂牛病はもともと、感染した羊の肉をえさとして与えられた牛から発生した。しかしもし、牛には本来与えるべき食物の草だけを与え、牛のミルクは子牛にのみ飲ませという創造の秩序に従って「人間の食」が営まれていたならば、牛も人も安全だったはずである。自然界に提供された人間のための「食計画」に従うことがいかに安全で、われわれの心身の発達と健康に最も有利であるということこそ、すべての人に理解していただけるよう努力したいと切に願う昨今である。

資料… <http://www.asahi.com/life/food/0923b.html>

http://www.naif.go.jp/www/press/cont/20021217/press_8.pdf

目次

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 巻頭言 人類のための食計画……………1 | ハーブとあなたの健康(5) |
| A GREAT NEWSTART 百薬にまさる水の効果…2~3 | 関節痛、痛風に役立つハーブ……………9 |
| 家庭でできる自然療法 痛風……………4~6 | こころ、からだ 病気の意味……………10 |
| 花粉症に朗報……………6 | ニュースタートクッキング ガーリックソース 他……………11 |
| 健康を作るベジタリアン 牛乳業界のアピール…7~8 | 日本衛生協会だより……………12 |